

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立上野高等学校 (定時制))

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		1 生徒が学びがいを実感する学校 2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 3 教職員が働きがいを実感する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	1 挨拶を大切にする生徒 2 気づきを大切にする生徒 3 命を大切にする生徒
	ありたい 教職員像	1 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 2 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> 確かな学力の育成と進路希望を実現し、居場所のある安心安全な学校 <保護者> 一人ひとりを大切にし、学力や社会性が身につく学校 <中学校> 一人ひとりの生徒の個性を生かし伸ばしていく学校 <地域・企業・事業主> 基礎学力、社会性、協調性、コミュニケーション力など調和のとれた生徒を育成する学校	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待 <保護者> 一人ひとりを大切にしたい教育と進路実現 <事業主> 社会人としての教養やマナーの定着	連携する相手への要望・期待 <保護者> 教育活動への理解と協力 <中学校> 支援の必要な生徒への情報共有や連携した指導 <地域の関係機関> 生徒の実態理解と支援
(3) 前年度の学校関係者評価等		○中学校でうまく人間関係がつかれず、学校に登校しづらかった生徒や外国人生徒に対して、丁寧で細やかに指導がされている。今後も継続して取組を進めてもらいたい。 ○社会性、協調性、コミュニケーション力等、調和のとれた生徒の育成を継続して行ってほしい。 ○行事に参加した際、大変和気あいあいとした雰囲気であったのをうれしく感じた。	
(4) 現状と課題	教育活動	○不登校経験のある生徒や外国人生徒の増加に伴い、生徒同士や教職員に対するコミュニケーション能力の育成や日本語教育が必要である。 ○成人生徒の入学や他校からの転・編入生徒が増加する中、本校の教育にうまく適応できる環境の整備に取り組む必要がある。	
	学校運営等	○家庭における経済的な困窮や教育力の低下、家庭基盤の脆弱な生徒の増加に対応するために外部機関と連携した取組を進める必要がある。 ○多様化する生徒や保護者に対応するため、教職員の研修の機会を確保し、様々な研修を通して教職員の資質の向上に取り組む必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	1. 生徒が学びがいを実感する学校 全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続する。生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現させるとともに、さまざまな活動を通して、主体的・協働的な態度、他者と共生する力の向上に向けて教育活動を進める。

2. 保護者・地域が頼りがいを実感する学校

卓越した魅力ある教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、適切迅速な対応などにより、保護者・地域の満足と信頼の安定的確保に向けて取り組む。

3. 教職員が働きがいを実感する学校

活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、全教職員が満足できる組織作りに取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 生徒が学びがいを実感する学校	【活動指標】 ○非常勤講師を含めたすべての教員が、ICTの活用やアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行うとともに、互いに協力し問題解決力を高める学習指導を実施 ○人権学習会を2回以上実施する ○登校指導を定期的に行う ○外国につながるのある生徒に対して日本語習得支援を行う ○進路面談や進路ガイダンスを行うとともに、ハローワークや就職実現コーディネーターと連携した進路指導の実施	(年度末および適宜記載) ○非常勤講師を含め全職員が生徒の状況を共有し取り組んだ。 ○人権学習会を2回、講演会を1回実施した。 ○生徒指導部を中心に毎日登校指導を行った。 ○学校設定科目、総合的な探究の時間を活用し実施した。 ○4年生に対し就職面談指導を行った。	◎
	○生徒アンケートで「安心して学習できる」100%	○96%	
	○生徒アンケートで「困難だと思ふことでも、前向きに考えて挑戦している」が100%	○95%	
	○生徒アンケートで「総合的な探究の時間」における「取組満足度」95%以上	○96%	
	○生徒アンケートで人権教育満足度100%	○100%	
	○日本語習得支援に係る授業への参加者5名以上	○8名参加	
	○生徒アンケートで「働くこと」への理解度80%	○71%	

改善課題

各教室に設置されているプロジェクタやChromebookなど、ICTを活用したアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を展開できた。今後は、活用する場面を増やすとともに、生徒の学力向上にもつなげていく必要がある。

「総合的な探究の時間」は、年々充実してきているが、生徒がより自主的に活動する授業にしていける必要がある。

本年度は、外国籍生徒の在籍生徒に対する割合が5割を超え、日本語指導のより一層の充実が必要である。

入学時より計画的に進路意識を高める取り組みを行っている。4年生の就職・進学希望者には、夏季休業中に全職員で面接指導を行った。また、進路学習を通して「働くこと」への理解に深める取り組みを行った。

就職実現コーディネーターとの連携を密にすることにより、より効果的な進路指導を行う必要がある。

定期的に人権学習会を実施。本年度は性的マイノリティーについて学習した。日常の活動の中での継続的な取組が必要である。

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
2. 保護者・地域が頼りがいを実感する学校	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全教職員が年1回以上の研修を行う ○保護者対象の授業公開を年1回以上実施する ○学校通信「道標(みちしるべ)」、「ほけんだより」を発行し、ホームページにも掲載 ○保護者懇談会(三者面談)を年間2回開催 ○中学校との情報共有を定期的に行う <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートで「学校通信により、学校の様子がわかる」と回答した割合 100% 	<p>(年度末および適宜記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全職員が研修を行った。 ○年2回実施した ○毎月発行した。 ○1学期末、2学期末の2回実施した。 ○各学期2回程度中学校を訪問し情報共有を行った。 ○88.2% 	<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
3. 教職員が働きがいを実感する学校	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○職員研修会、他校との合同研修会の開催 ○毎週金曜日を定時退校日とし、設定した日の定時に退校できた職員の割合 100% ○週1日以上以上の休養日を設定できた部活動の割合 100% ○60分以内に終了した会議の割合 90%以上 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下の職員の割合 100% ○一人当たりの年間休暇取得日数を20日以上 ○月45時間を超える時間外労働者の延べ人数0人 ○年360時間を超える時間外労働者の人数0人 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談、ICT活用について研修を行った。 ○100% ○本年度は部活動を行っていない。 ○100% ○100% ○16.3日 ○0人 ○0人 	

改善課題

8割以上の保護者が、学校通信や保健便りを通して学校の様子がわかると回答しており、情報発信として効果的であった。合わせてホームページへの掲載も継続し充実させていきたい。

多様な生徒に対応するため、保護者、中学校、地域機関との連携は不可欠である。今後も連携を密にして教育活動を進めていく必要がある。

ICT活用や生徒支援に関する校内研修を実施した。今後も課題に応じた校内研修を設定するとともに、校外研修も積極的に実施し、教育活動に生かしていくことが必要である。

日頃からの情報共有を密にすることで、会議時間の短縮につなげることができた。過重労働の緩和や総勤務時間の縮減に向けて継続した取り組みが必要である。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ○定時制では、外国籍の生徒や不登校を経験した生徒など多様な生徒が学んでいるが、そのことを強みに捉え、多様な生徒との関わりから人間関係の築き方を学ぶことを通して、社会に出て活躍する力を育成して欲しい。 ○定時制は、多様な生徒の居場所になっている。今後も、中学校や地域との連携を深めて教育をして欲しい。 ○日本語指導の更なる充実について、中学校・地域からの期待は高い。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">○外国籍生徒に対する日本語指導を充実させる。○多様な生徒に対する支援のため、中学校や地域機関との情報共有を含めた連携を充実させる。○ICT 活用を充実させるとともに、生徒の主体的な学びにつながる取組を充実させる。また、そのための職員研修の充実を図る
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">○学校のビジョンに対して教職員間の共通理解をより一層図る。○業務の効率化を図り、総勤務時間の縮減に向けた取組を進める。○夜間定時制課程であるからこそ果たせる役割を担い続けるため、カリキュラムマネジメントを推進する。